



金沢市立小立野小学校

小立野小学校は、緑豊かな小立野台地に立地し、寺院や住宅が建ち並ぶ伝統的な地域の小学校である。もともと天徳院のお庭であった場所に建てられた旧校舎の老朽化に伴い建替えを行った。金沢市が豊かな都市景観を保つことを目的に、平成21年4月に公募型プロポーザル方式実施要綱を制定し、金沢市で初めての市立学校の設計者を公募型プロポーザル方式によって選定することになった。我々の提案した、2つの中庭を残しながら2期に分けて校舎を建設するという計画に沿って工事が進められ、平成24年11月に施工を迎えた。

敷地は通りを挟んで住宅が建ち並び、また公民館や公園も隣接する地域の中心地である。そのため、建ち並ぶ住宅地に対して軒を低く抑えた2階建ての校舎を寄り添うように配置し、残した2つの中庭を囲むように瓦葺きで平屋の木造校舎を配置した。

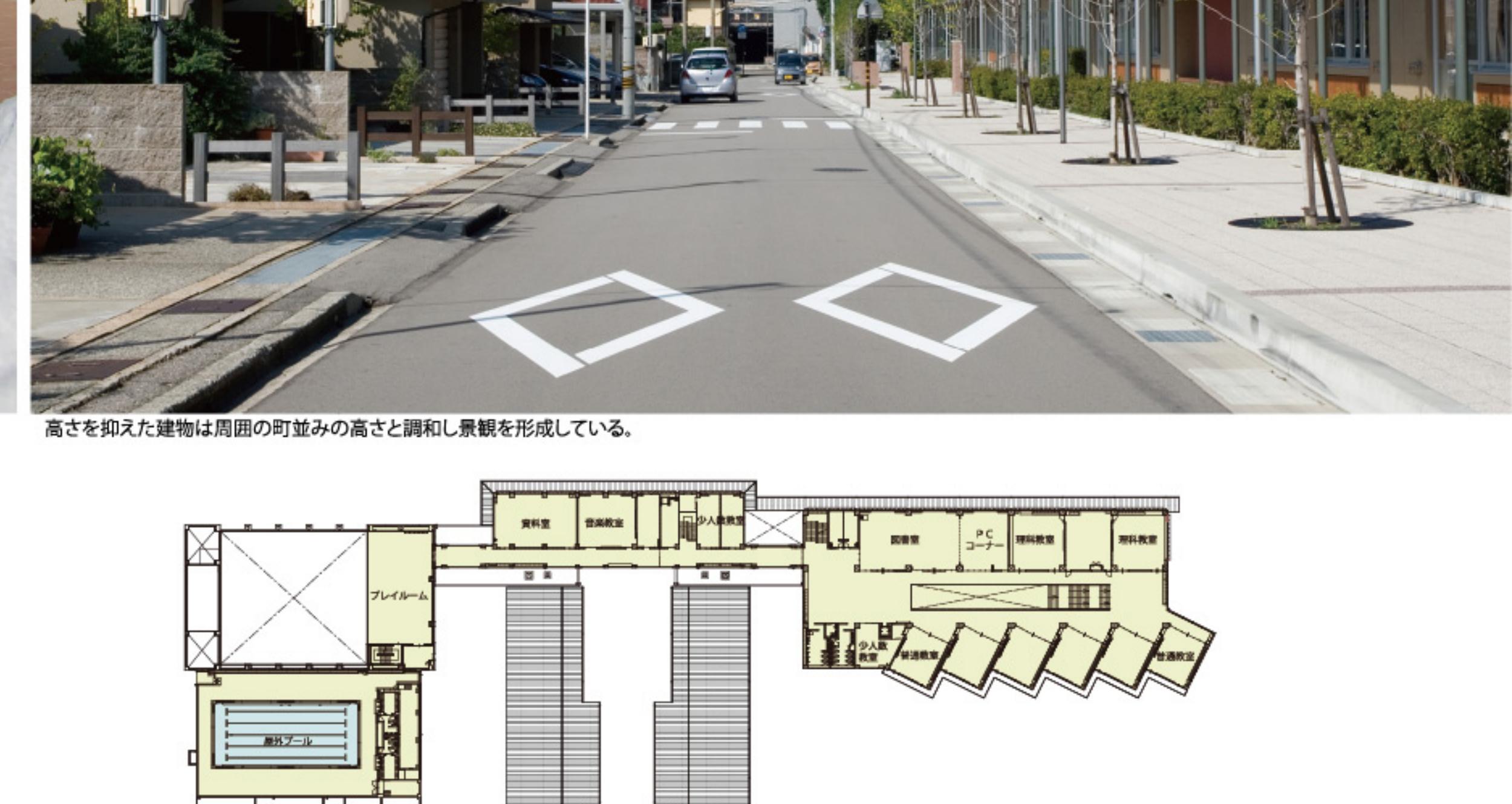
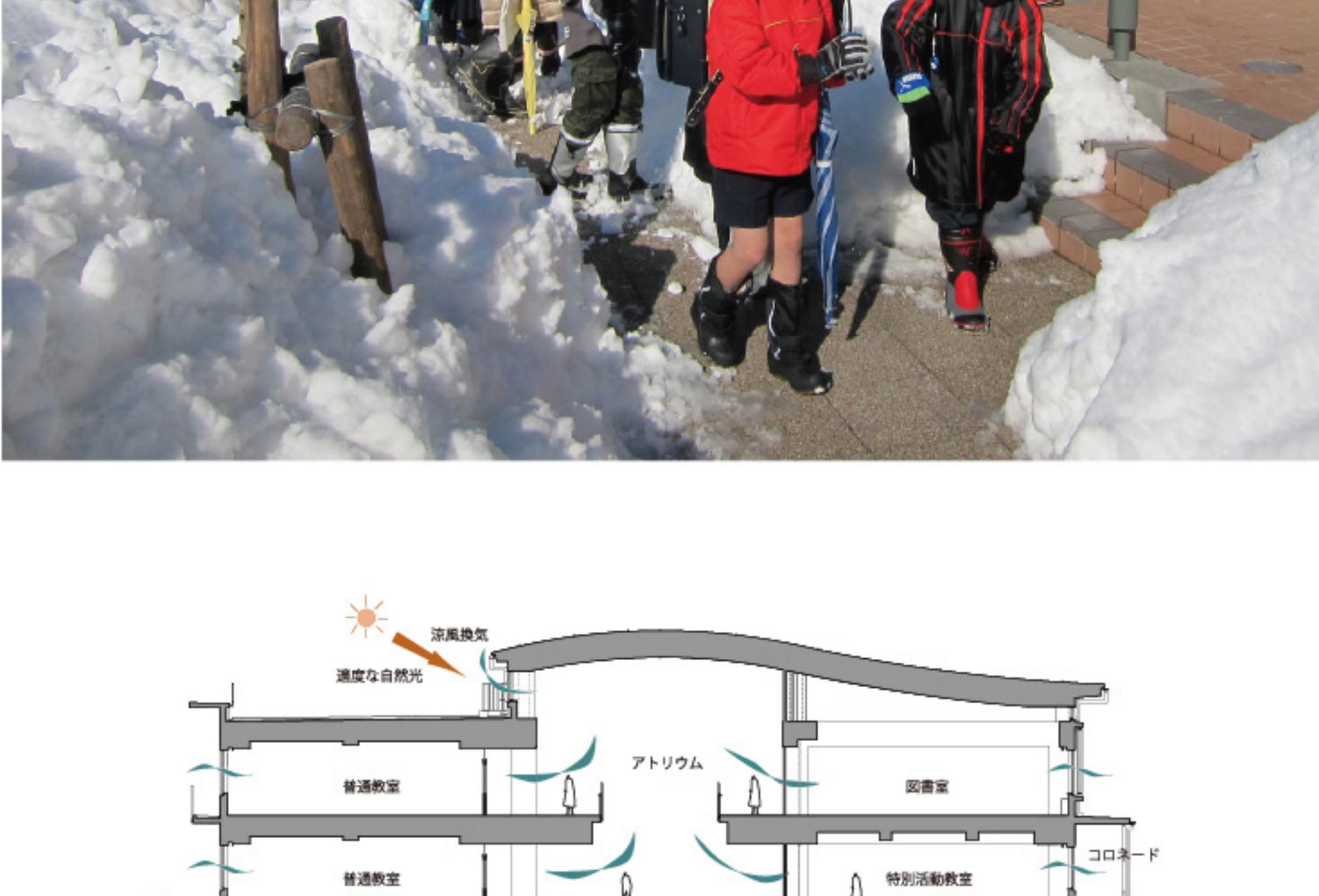
住宅が並ぶ前面通り沿いは敷地側に歩道を広げ、冬の厳しい気候風土に配慮したコロネード（雁木）を設けた。また、2階の開口部には地元産の杉材で格子を設けるなどして周囲のスケールに調和するようにファサードをつくっている。

また、低学年はやさしい平屋の木造校舎で緑豊かな庭に囲まれる空間、中学年

は1階でグラウンドに飛び出せる大きなアトリウムに面した空間、高学年は2階でアトリウムの吹抜けに面し眺めの良い落ち着いた空間というように子どもたちの成長に合わせ、さまざまな空間を用意している。

子どもたちが快適に過ごせるように環境負荷に考慮した計画を行った。学校内の随所で自然光を最大限に取り込み照明エネルギーを低減しつつ、日光をコントロールするために低学年教室には大きな樹木を設け、日除け効果を狙った。トップライト等で両側開口となっているため、自然換気画有効であり通風による夏場でも快適な室内空間の計画となっている。また、敷地内に太陽光発電器を設置し、省エネ効果を得るとともに太陽光発電のプロセスを使用した環境教育の実践などを取り入れている。

施工後、時々現地を訪れているが、周囲に障壁がない校舎で伸び伸びと活動している子どもたちの様子や敷地内に広げた歩道を散歩する地域の人々を見ると、地域に開かれた健全な校舎が実現できたと確信している。



高さを抑えた建物は周囲の町並みの高さと調和し景観を形成している。

2階平面図 横尺1/800

1階平面図 横尺1/800

